

(別添1)

No.	17
策定年月	令和2年11月
見直し年月	令和5年11月

水田農業高収益化推進計画

静岡県

1. 水田において高収益作物・子実用とうもろこしの導入を図る目的

本県が独自に算出している県産米需要量予測によると、県産米の需要量は年1,300トン程度減少している。今後、米の一人当たり消費量の更なる減少と、人口減少の加速により、需要量の減少は一層加速していくと考えられる。本県では15,000haの水田で主食用米が作付けられている(令和4年度)が、このまま需要量が減少していくとすれば、今後10年間で約2,500haの水田において新たに主食用米からの転換を図る必要がある。

本県のこれからの水田農業の方針として、高収益作物の導入が重要と捉えている。冬季でも温暖な本県の気候を活かしたレタスなどの露地野菜裏作が県中～西部を中心に広がっているが、湿害の発生による収量や品質、作業性の低下が課題となっているほか、野菜作で土壌に残った肥料が水稻作に与える影響を懸念する声もあることから、新規取組の動きは鈍くなっている。そこで、基盤整備事業を活用した水田の汎用化や畑地化を進め、裏作野菜の収量、品質及び作業性の向上を目指すとともに、水稻作から露地野菜への転換を推進していくことによって、需要に応じた米生産の推進、荒廃農地の発生抑制、農業産出額の増加を目指していく。

また、本県では西部及び富士山周辺を中心とした東部地域で畜産業が盛んである。従来から広く取組がある飼料用米、WCS用稲の作付けに加え、労働生産性の高い子実用とうもろこしの作付けを拡大することで、自給飼料の生産拡大と畜産物の付加価値の向上に繋げることも重要である。

以上のことから、露地野菜を中心とした高収益作物及び子実用とうもろこし等の導入を進めていくことで、主食用米の作付面積が県の試算する需要量予測に沿ったものとなるよう、取組を進めていく。

2. 目標

(1) 推進方針

需要に応じた米生産の推進、荒廃農地の発生抑制及び農業産出額の増加に向け、水田において露地野菜を中心とした高収益作物の導入を推進していく。冬でも温暖な本県の気候を活かし、レタス等の冬季水田裏作の取組などが既に広まっているが、今後は水田裏作の拡大のみならず、基盤整備の推進や水田農業高収益化推進助成を活用した水稲から畑作物への転換による新たな産地づくりの両方を進め、まずは9産地を創出する。

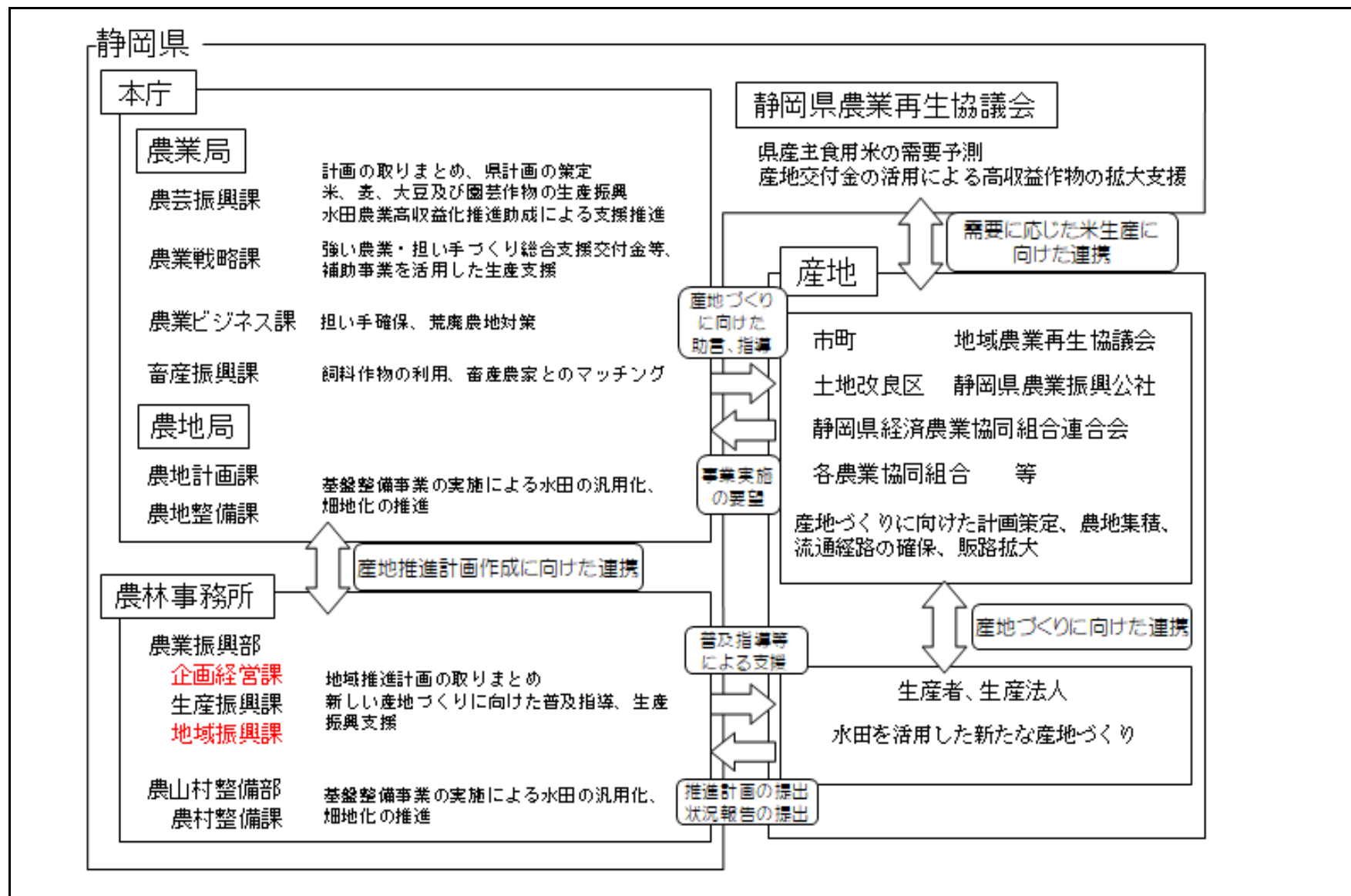
推進に当たっては、本県において一定の作付実績があり、今後も需要の拡大が見込まれるレタス、タマネギ、ネギ、キャベツ、エダマメ、スイートコーン、ブロッコリーを推奨品種として推進していく。また、市町等段階での水田農業高収益化推進プロジェクトチームの設置等を推進するとともに、各地域において取組を始めるその他の高収益作物についても、同様に農業産出額の向上に繋がると見込まれるため、推進していく。令和16年度までに16産地の創出を目標に地域へ働きかけていき、令和13年までに水田における野菜生産産出額の20.2億円の増加を目指す。

(2) 推進品目

品目名	用途	露地／施設	選定理由	目標							
				作付面積の拡大		収量の向上		販売額の向上		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
レタス	生食用／加工用・業務用	露地	冬レタスは関東を中心に需要が高く、マーケティング推進戦略においても重要な品目に位置付けられ、栽培面積も拡大傾向にある。契約栽培が多く、堅調な需要が見込まれる。	839.3 ha (令和元年)	1021.8 ha (令和13年)	2,558 kg/ 10a (令和元年)	2,687 kg/ 10a (令和13年)	428,443 万円 (令和元年)	547,680 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
レタス	生食用	施設	生産から販売までを自社で行う大型農業法人が生産を計画している。既存の販路を活用した販売が見込まれ、需給バランスに影響を与える可能性は低い。	0.0 ha (令和4年)	3.0 ha (令和16年)	0 kg/ 10a (令和4年)	37,784 kg/ 10a (令和16年)	0 万円 (令和4年)	113,352 万円 (令和16年)	(令和-年)	(令和-年)
タマネギ	生食用／加工用・業務用	露地	加工・業務用の需要が高く、県内外において水田での導入の実績もある品目である。国内自給率が80%程度であり、国産需要を満たすために生産の拡大が見込まれる。	21.2 ha (令和元年)	36.6 ha (令和13年)	3,801 kg/ 10a (令和元年)	3,991 kg/ 10a (令和13年)	12,197 万円 (令和元年)	22,138 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
ネギ	生食用	露地	単価も高く、水田農業の高収益化推進に適した品目である。県西部地域などでは、地域の特産物として販路を拡大している事例もあり、安定した需要が見込まれる。	32.8 ha (令和元年)	56.7 ha (令和13年)	2,170 kg/ 10a (令和元年)	2,279 kg/ 10a (令和13年)	33,468 万円 (令和元年)	60,745 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
キャベツ	生食用／加工用・業務用	露地	カット野菜としての需要が増えており、水田での導入実績があり、作付面積も増加傾向にある。地域内流通のほか、実需者との契約栽培も多く、安定した需要が見込まれる。	32.2 ha (令和元年)	55.6 ha (令和13年)	3,500 kg/ 10a (令和元年)	3,675 kg/ 10a (令和13年)	9,824 万円 (令和元年)	17,832 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
エダマメ	生食用	露地	水田での導入実績があり、作付面積も増加傾向にある需要が高い品目であるため。地域内流通が主であり、需給のバランスに影響を与える可能性は低い。	9.5 ha (令和元年)	16.5 ha (令和13年)	699 kg/ 10a (令和元年)	734 kg/ 10a (令和13年)	4,803 万円 (令和元年)	8,718 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
スイートコーン	生食用	露地	中遠地域などで産地化され、水稲及び露地野菜との輪作体系が構築されていることから、今後の作付拡大が見込まれる品目である。地域内流通が主であり、需給のバランスに影響を与える可能性は低い。	29.9 ha (令和元年)	51.6 ha (令和13年)	859 kg/ 10a (令和元年)	902 kg/ 10a (令和13年)	6,072 万円 (令和元年)	11,020 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
ブロッコリー	生食用／加工用・業務用	露地	水田での導入実績があり、作付面積も増加傾向にある。共販が中心だが、冷凍用の需要も伸びている。国産自給率は70%程度であり、国産需要を満たすために生産の拡大が見込まれる。	10.6 ha (令和元年)	18.3 ha (令和13年)	1,377 kg/ 10a (令和元年)	1,446 kg/ 10a (令和13年)	3,538 万円 (令和元年)	6,421 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
温州みかん	生食用	露地	本県での基幹作物であり、高収益が見込まれる品目である。地域内流通が主であり、需給のバランスに影響を与える可能性は低い。	0.0 ha (令和元年)	0.7 ha (令和16年)	0 kg/ 10a (令和元年)	2,281 kg/ 10a (令和16年)	0 万円 (令和元年)	511 万円 (令和16年)	(令和-年)	(令和-年)
きゅうり	生食用	露地	県内で広く作付られており、新たな作付の拡大が見込まれる品目である。地域の直売所での販売拡大が見込まれ、需給のバランスに影響を与える可能性は低い。	8.2 ha (令和元年)	14.1 ha (令和13年)	3,115 kg/ 10a (令和元年)	3,271 kg/ 10a (令和13年)	6,063 万円 (令和元年)	11,004 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
ホウレンソウ	生食用／加工用・業務用	露地	現在は生食用が多いが、メーカーから冷凍食品向けを求める声もあり、作付面積の拡大が望まれる品目であるため。自販による地域内流通の拡大が中心であり、需給バランスに影響を与える可能性は低い。	16.8 ha (令和元年)	29.1 ha (令和13年)	1,508 kg/ 10a (令和元年)	1,584 kg/ 10a (令和13年)	10,160 万円 (令和元年)	18,440 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
クレソン	生食用／加工用・業務用	露地	湿地に適応した作物であり、水田での作付拡大が見込まれる品目である。農協と実需者が結びついた生産が主になるため、安定した需要が見込まれる。	0.2 ha (令和元年)	0.9 ha (令和13年)	2,430 kg/ 10a (令和元年)	2,746 kg/ 10a (令和13年)	535 万円 (令和元年)	2,713 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
小松菜	生食用／加工用・業務用	露地	作付面積が増加傾向にあり、家庭用/業務用の安定した需要が見込まれるため。農協と実需者が結びついた生産が主になるため、安定した需要が見込まれる。	7.4 ha (令和元年)	25.5 ha (令和13年)	1,667 kg/ 10a (令和元年)	1,750 kg/ 10a (令和13年)	3,665 万円 (令和元年)	13,276 万円 (令和13年)	(令和-年)	(令和-年)
チンゲン菜	生食用	露地	生産から加工・販売までを自社で行う大型農業法人が生産を計画している。既存の販路を活用した販売が見込まれ、需給バランスに影響を与える可能性は低い。	0.2 ha (令和4年)	1.8 ha (令和14年)	2,100 kg/ 10a (令和4年)	2,300 kg/ 10a (令和14年)	102 万円 (令和4年)	1,006 万円 (令和14年)	(令和-年)	(令和-年)
トマト	生食用	施設	生産から販売までを自社で行う大型農業法人が生産を計画している。既存の販路を活用した販売が見込まれ、需給バランスに影響を与える可能性は低い。	0 ha (令和4年)	3.0 ha (令和16年)	0 kg/ 10a (令和4年)	31,100 kg/ 10a (令和16年)	0 万円 (令和4年)	55,980 万円 (令和16年)	(令和-年)	(令和-年)

- ※ 「用途」欄には、用途に応じて「生食用」「加工・業務用」「飼料用」「切り花用」等と記載する。
- ※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合、項目を分けて記載する。
- ※ 「選定理由」欄には、①出荷先が確保されているか、②既存産地等との競合により需給バランスに乱れが生じないか、③ロットは確保できるなどの観点にも留意して記載する。（関係資料の添付でも可。また、審査に当たって追加資料の提出を求められることがある。）
- ※ 設定した目標値の妥当性が分かる資料（県や地域の統計など）を添付すること。

3. 推進体制及び役割



4. 目標達成に向けた取組

(1) 品目共通の取組

<ul style="list-style-type: none"> 産地交付金を活用した水田での露地野菜の作付を誘導する。 市町、県、農業振興公社などが連携して農地集積を推進し、高収益作物等の作付面積の拡大を図る。 基盤整備の実施により、水田の汎用化や畑地化を進め、高収益作物の作付に適した農地への転換を図る。 県やJAによる栽培技術指導を通じ、収量及び品質の安定化・向上を図る。 JAや実需者と生産者を結びつけ、供給が追いついていない品目や、需要の拡大が見込まれる品目の作付を中心に拡大することで、販売額の安定を図る。
--

(2) 推進品目ごとの取組

品目名	取組内容			
	作付面積の拡大	収量の向上	販売額の向上	その他
レタス (露地)	産地交付金を活用した作付の誘導	トンネル資材の適切な使用、適期収穫の実施	首都圏を中心とした販路の拡大	
レタス (施設)	基盤整備や施設整備により生産性を向上させたほ場での作付けを推進	基盤整備や施設整備により生産性を向上させたほ場での作付けを推進	既存の実需への安定出荷による販路の確保	
タマネギ	水稲裏作や輪作での導入を推進	地域に適した品種の選定(系統適応性試験を実施中)	地域に適応した品種の普及による出荷量の安定化 業務用を含めた販路開拓	
ネギ	水田の畑地化とともに導入を推進	排水対策の実施、適切な栽培管理(土寄せなど)及び、ネギハモグリバエなどの病害虫防除(薬剤散布)	県内外市場への出荷量拡大	
キャベツ	機械収穫の実証試験結果を地域へフィードバックし、導入を推進	適切な防除(薬剤散布)、施肥の実施 水稲との輪作による連作障害の予防	適切な栽培管理による歩留まりの向上	
エダマメ	産地交付金を活用した作付の誘導	適切なカメムシ等害虫の防除(薬剤散布)実施	契約取引率の増加による経営の安定化	
スイートコーン	水稲との輪作体系の普及推進	適切なアワノメイガ等害虫の防除実施(薬剤散布)	業務用を含めた販路開拓と安定出荷	
ブロッコリー	水稲との輪作体系の普及推進	適切なヨトウ等害虫の防除実施(薬剤散布)、水稲との輪作による連作障害の予防	加工業務用の契約栽培の推進による販路拡大	
温州みかん	畑地化を実施した地域での新植推進	適切な施肥管理や摘果などの指導を実施し、安定した収量を確保	排水性の高いほ場での栽培による高品質化による単価向上	
きゅうり	基盤整備等による排水性を向上させたほ場での作付けを推進	優良品種の導入、うどんこ病などの適期防除	直売所等、新たな販路の開拓による地域内流通の強化	
ホウレンソウ	基盤整備等による排水性を向上させたほ場での作付けを推進	土壌pHの管理、排水対策の実施	拡大が見込まれる加工・業務用の作付推進	
クレソン	基盤整備後のほ場での作付拡大	適切な水管理の実施	既存の実需への安定出荷による販路の確保	
小松菜	基盤整備等による排水性を向上させたほ場での作付けを推進	明渠、暗渠、フォアスなどの排水対策の実施	排水対策の実施による出荷量の安定化 業務用を含めた販路開拓	
チンゲン菜	基盤整備等による排水性を向上させたほ場での作付けを推進	明渠、暗渠などの排水対策の実施	排水対策の実施による出荷量の安定化 既存の実需への安定出荷による販路の確保	
トマト	基盤整備や施設整備により生産性を向上させたほ場での作付けを推進	基盤整備や施設整備により生産性を向上させたほ場での作付けを推進	既存の実需への安定出荷による販路の確保	

5. 産地推進計画の作成主体

No	作成主体名	関係市町村	備考
001	南伊豆町	南伊豆町	竹麻地区
002	浜松市	浜松市	村櫛前田沖地区
003	浜松市	浜松市	上善地地区
004	伊豆の国市	伊豆の国市	長者原地区
005	浜松市	浜松市	村櫛保令地区

※ 各主体が作成した「産地推進計画」を添付するものとする。

(別添2)

No.	17-001
策定年月	令和2年11月
見直し年月	

水田農業高収益化推進計画
南伊豆町竹麻地区産地推進計画

1 計画作成主体の情報

名称	南伊豆町
構成機関・団体名及び役割分担	<div style="text-align: center;"><p>竹麻地区基盤整備事業推進協議会</p><p>地権者 南伊豆町 県(賀茂農林事務所) JA伊豆太陽 農業者</p><p>竹麻地区基盤整備地活用研究会</p></div> <p>各団体の役割</p> <ul style="list-style-type: none">・南伊豆町…計画作成のコーディネート・JA伊豆太陽…基盤整備地活用方法の助言、指導・静岡県(賀茂農林事務所)…基盤整備事業の推進と活用方法の助言、指導・地権者…竹麻地区基盤整備事業推進協議会に参加し、基盤整備地の活用に関して検討・農業者…基盤整備地を耕作・販売先の確保(※) <p>※直売所、自販により販売ルートを確認</p>

2 推進品目及び目標

品目名	用途	露地／施設	産地名	目標							
				作付面積		収量		販売額		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
温州みかん	生食用	露地	竹麻	0 ha (令和元年)	0.7 ha (令和16年)	0 kg/10a (令和元年)	2,281 kg/10a (令和16年)	0 円 (令和元年)	5,109,440 円 (令和16年)		

きゅうり	生食用	露地	竹麻	0 ha (令和元年)	0.3 ha (令和10年)	0 kg/10a (令和元年)	3,161 kg/10a (令和10年)	0 円 (令和元年)	2,958,696 円 (令和10年)		
ホウレンソウ	生食用	露地	竹麻	0 ha (令和元年)	0.3 ha (令和10年)	0 kg/10a (令和元年)	1,489 kg/10a (令和10年)	0 円 (令和元年)	2,863,347 円 (令和10年)		
ネギ	生食用	露地	竹麻	0 ha (令和元年)	0.2 ha (令和10年)	0 kg/10a (令和元年)	2,093 kg/10a (令和10年)	0 円 (令和元年)	1,393,938 円 (令和10年)		
ブロッコリー	生食用	露地	竹麻	0 ha (令和元年)	9.8 ha (令和10年)	0 kg/10a (令和元年)	1,292 kg/10a (令和10年)	0 円 (令和元年)	26,842,592 円 (令和10年)		

※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合や、出荷団体が複数ある場合には、項目を分けて記載し、

「産地名」欄に、●●農協、●●集落、●●学区など、一定のまとまりを持って高収益作物又は子実用とうもろこしの作付けに取り組む範囲が分かる名称を記載すること。

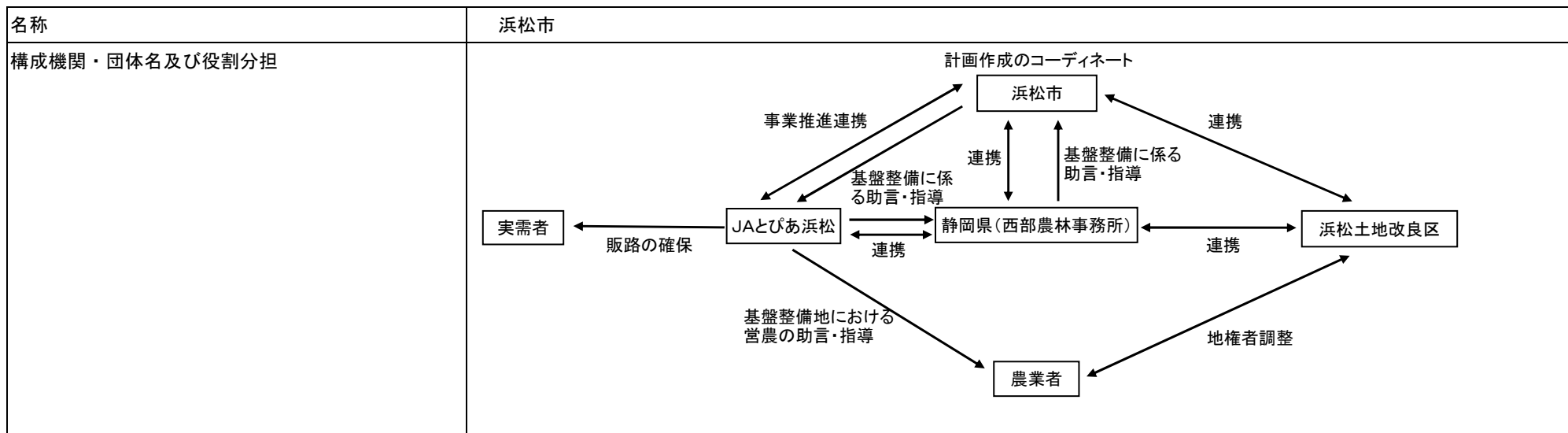
※ 設定した目標値の妥当性がわかる資料（県や地域の統計など）を添付すること。

(別添2)

No.	17-002
策定年月	令和2年11月
見直し年月	

水田農業高収益化推進計画 村櫛前田沖地区産地推進計画

1 計画作成主体の情報



2 推進品目及び目標

品目名	用途	露地／施設	産地名	目標							
				作付面積		収量		販売額		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
レタス	加工・業務用	露地	村櫛前田沖	0 ha (令和元年)	5 ha (令和13年)	0 kg/10a (令和元年)	2,305 kg/10a (令和13年)	0 円 (令和元年)	30,324,000 円 (令和13年)	(令和〇年)	(令和〇年)
クレソン	加工・業務用	露地	村櫛前田沖	0.2 ha (令和元年)	0.9 ha (令和13年)	2,430 kg/10a (令和元年)	2,746 kg/10a (令和13年)	5,346,000 円 (令和元年)	21,780,000 円 (令和13年)	(令和〇年)	(令和〇年)

※ 「用途」欄には、用途に応じて「生食用」「加工・業務用」「飼料用」「切り花用」等と記載する。

※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合や、出荷団体が複数ある場合には、項目を分けて記載し、

「産地名」欄に、●●農協、●●集落、●●学区など、一定のまとまりを持って高収益作物又は子実用とうもろこしの作付けに取り組む範囲が分かる名称を記載すること。

※ 設定した目標値の妥当性がわかる資料（県や地域の統計など）を添付すること。

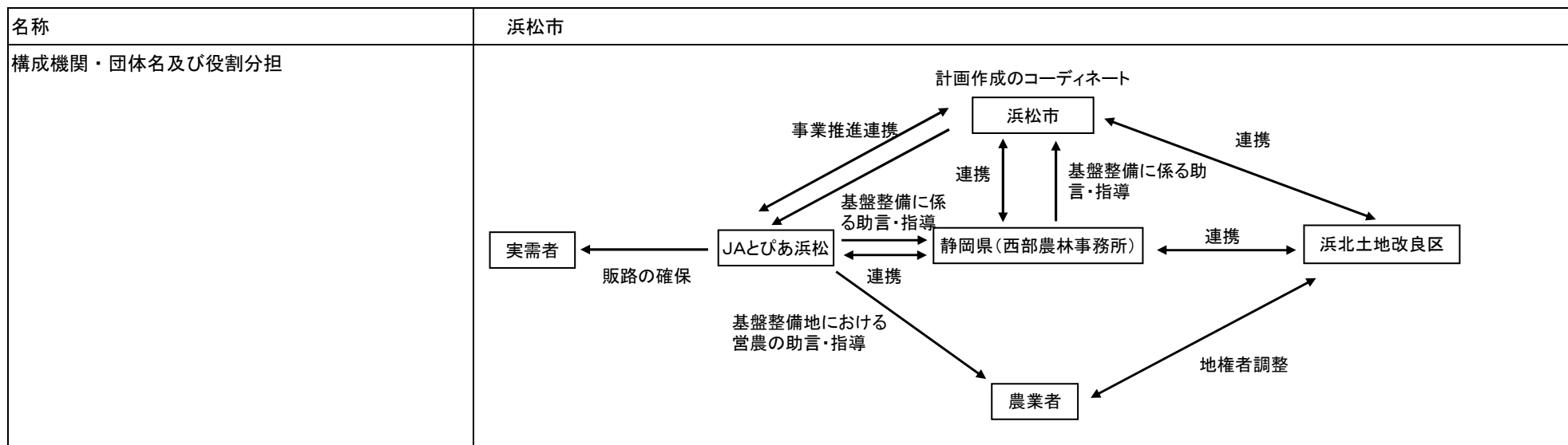
出典：水利施設等保全高度化事業（高収益作物転換型）村櫛前田沖地区計画概要書

(別添2)

No.	17-003
策定年月	令和2年11月
見直し年月	

水田農業高収益化推進計画 上善地地区産地推進計画

1 計画作成主体の情報



2 推進品目及び目標

品目名	用途	露地／施設	産地名	目標							
				作付面積		収量		販売額		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
キャベツ	加工・業務用	露地	上善地	0 ha (令和元年)	12.7 ha (令和13年)	0 kg/10a (令和元年)	4,169 kg/10a (令和13年)	0 円 (令和元年)	58,775,000 円 (令和13年)	(令和〇年)	(令和〇年)
小松菜	加工・業務用	露地	上善地	0 ha (令和元年)	12.7 ha (令和13年)	0 kg/10a (令和元年)	1,842 kg/10a (令和13年)	0 円 (令和元年)	65,492,000 円 (令和13年)	(令和〇年)	(令和〇年)

※ 「用途」欄には、用途に応じて「生食用」「加工・業務用」「飼料用」「切り花用」等と記載する。

※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合や、出荷団体が複数ある場合には、項目を分けて記載し、

「産地名」欄に、●●農協、●●集落、●●学区など、一定のまとまりを持って高収益作物又は子実用とうもろこしの作付けに取り組む範囲が分かる名称を記載すること。

※ 設定した目標値の妥当性がわかる資料（県や地域の統計など）を添付すること。

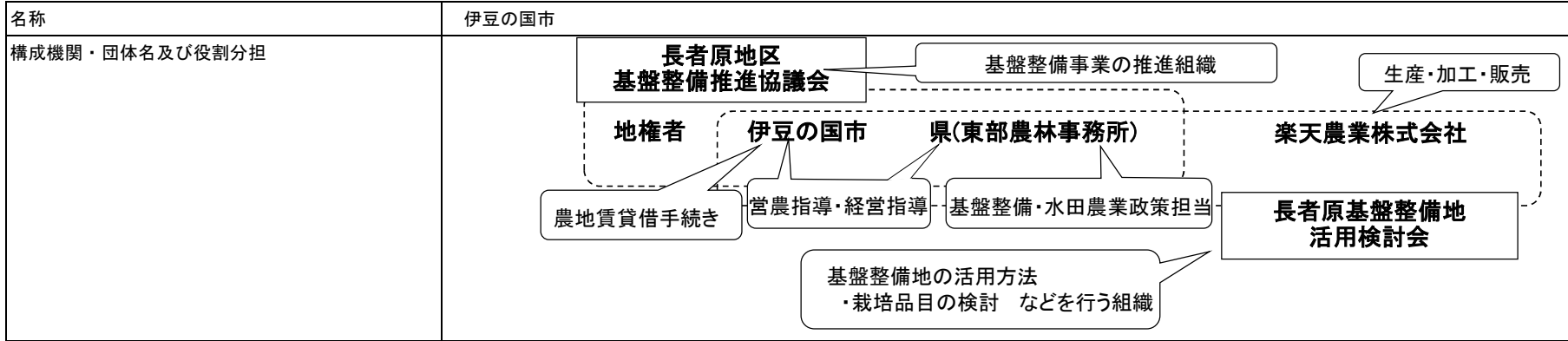
出典：水利施設等保全高度化事業（高収益作物転換型）上善地地区計画概要書

(別添2)

No.	17-004
策定年月	令和4年11月
見直し年月	

水田農業高収益化推進計画
伊豆の国市長者原地区産地推進計画

1 計画作成主体の情報



2 推進品目及び目標

品目名	用途	露地／施設	産地名	目標							
				作付面積		収量		販売額		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
チンゲン菜	生食用	露地	長者原	0.2 ha (令和4年)	1.8 ha (令和14年)	2,100 kg/10a (令和4年)	2,300 kg/10a (令和14年)	1,020,600 円 (令和4年)	10,060,200 円 (令和14年)		
玉ねぎ	生食用	露地	長者原	0.3 ha (令和4年)	1.4 ha (令和14年)	3,300 kg/10a (令和4年)	3,800 kg/10a (令和14年)	1,504,800 円 (令和4年)	8,086,400 円 (令和14年)		
レタス	生食用	露地	長者原	0.6 ha (令和4年)	4.5 ha (令和14年)	2,200 kg/10a (令和4年)	2,500 kg/10a (令和14年)	3,352,800 円 (令和4年)	28,575,000 円 (令和14年)		

※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合や、出荷団体が複数ある場合には、項目を分けて記載し、

「産地名」欄に、●●農協、●●集落、●●学区など、一定のまとまりを持って高収益作物又は子実用とうもろこしの作付けに取り組む範囲が分かる名称を記載すること。

※ 設定した目標値の妥当性がわかる資料（県や地域の統計など）を添付すること。

(別添2)

No.	No. 17-005
策定年月	令和5年11月
見直し年月	

水田農業高収益化推進計画 村櫛保令地区産地推進計画

1 計画作成主体の情報

名称	浜松市
構成機関・団体名及び役割分担	<p>各団体の役割</p> <p>浜松市・・・計画作成のコーディネーター、企業の経営体との調整、水田政策の推進</p> <p>静岡県（西部農林事務所）・・・栽培作物栽培方法の指導・助言、基盤整備事業の推進、事業実施と活用方法の助言・指導</p> <p>保令地区土地利用協議会・・・基盤整備事業の推進、地権者調整</p> <p>企業の農業経営体・・・基盤整備地を耕作、耕作地拡大に伴う販路の確保</p>

2 推進品目及び目標

品目名	用途	露地／施設	産地名	目標							
				作付面積		収量		販売額		その他	
				現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値	現状値	目標値
トマト	生食用	施設	村櫛保令	0 ha (令和4年)	3 ha (令和16年)	0 kg/10a (令和4年)	31,100 kg/10a (令和16年)	0 円 (令和4年)	559,800,000 円 (令和16年)	(令和〇年)	(令和〇年)
レタス	生食用	施設	村櫛保令	0 ha (令和4年)	3 ha (令和16年)	0 kg/10a (令和4年)	37,784 kg/10a (令和16年)	0 円 (令和4年)	1,133,520,000 円 (令和16年)	(令和〇年)	(令和〇年)

※ 「用途」欄には、用途に応じて「生食用」「加工・業務用」「飼料用」「切り花用」等と記載する。

※ 同一の品目であっても、用途や「露地／施設」の別が異なる場合や、出荷団体が複数ある場合には、項目を分けて記載し、

「産地名」欄に、●●農協、●●集落、●●学区など、一定のまとまりを持って高収益作物又は子実用とうもろこしの作付けに取り組む範囲が分かる名称を記載すること。

※ 設定した目標値の妥当性がわかる資料（県や地域の統計など）を添付すること。